

外から入った立場だから、魅力に気付けた

震災の風評被害に直面した岩泉町の観光振興に携わった橋本充司さん(32)は、

「いわて復興応援隊」の第一期生として3年半の活動を終え、今春から同町岩泉の菓子店「志たあめや」で働く。5月に結婚した妻の園さん(28)の実家。縁が縁をつなぎ、新たな活躍の場を見いだした。

同店は1832(大保3)年創業の老舗。手作りの工程を大事にした和洋菓子や駄菓子を手掛ける。ガラスケースに並ぶパンは、町民のソウルフードだ。東京での営業マン時代や応援隊員とも違う菓子製造の現場。「朝の仕込みも問題ない」と意気込み、常連客との会話を楽しむ。

黒糖を振りかけ、炭火で仕上げる名物のかりんとうは、日本航空の機内食の限定メニューにも採用され

大阪市から岩泉町へ

橋本 充司さん(菓子店勤務)

た。「長い歴史を持つことを強みに販路を開拓していきたい」。若い感性を生かし、園さんとさらなる経営効率化を目指す。

営業マン時代、時間の経過とともに震災への関心が薄まることに違和感を感じた。「相手も自分も得るところが大きい町おこしの仕事をしたい」と被災地で長期の活動を模索する中、応援隊を知り、2012年10月に町の経済観光交流課に着任。龍泉洞や昭和レトロの雰囲気を残す「うれいら通り商店街」を中核とした誘客に取り組んだ。

11年度の町の観光客入り込み数は、前年度から約11万人減の28万人余りと苦戦。「全国の観光資源を過小評価している」との思いから、「恋人の聖地」に認定された親水空間のPRや謎解きを組み込んだ三陸

第二の古里 誘客に汗

鉄道の「ゾロリ列車」です。大阪出身の軽妙な語り口を演じるなど体を張って観光客は徐々に回復し、出された。「みんな酔っ払って進行どころじゃなかった。人口減少が進む中、結婚支援も重要な仕事。婚活イベント「龍(ドラ)コン」

仕事を通じ「誠実な人柄」と信頼を置く。活動の軸足を民間に移した今も、観光振興の思いは揺るがない。岩手国体の期間中には商店街の若手店主とお薦め商品売り込む企画も開く予定。「ぼっと入った立場だから気付くことがある。店の経営を固め、商店街はすごいんですよ」と

「可能性を広げたい」。可能性を広げた第二の古里。挑戦は始まったばかりだ。(報道部・八重樫和孝)



かりんとうのパッケージを話し合う橋本充司さんと妻の園さん。老舗菓子店の販路拡大に励む。岩泉町岩泉

